



2021年度 愛知県公立高校入試問題

Aグループ 分析コメント

教科	コメント
国語	<p>【難易度】(2020年度との比較) やや易化</p> <ul style="list-style-type: none">・現代文は説明的文章が2題出題された(どちらも随筆)が、いずれも文章の内容が具体的であり、2020年度のAグループより読みやすい文章であった。・設問数は18問で、うち4問が2点配点のものであった(2020年度と同じ)。・古典は古文が出題されたが、内容は理解しやすいものであった。・要約問題は、指定された言葉以外にもポイントがある、差のつきやすい問題であった。・コロナ禍ゆえ「基本的な問題」を出題する方針が県から発表されていたが、2017年度から出題されていた、本文と生徒がまとめた文章を照合して考える問題は、出題されなかった。
数学	<p>【難易度】(2020年度との比較) やや易化</p> <ul style="list-style-type: none">・大設問1の基本的な問題が増え、大設問2の応用問題が減った。また、図形の問題では学習したことのある取り組みやすい問題が出題されたことから、全体的にやや易化した。・2020年度の大設問2(1)で、正の数・負の数を利用した従来と異なる新しいタイプの問題が出題されたが、2021年度はそういった新傾向の問題は見られなかった。
社会	<p>【難易度】(2020年度との比較) 変化なし</p> <ul style="list-style-type: none">・選択肢から最も適当なものを全て選ぶ形式の問題や分野をまたいだ融合問題は出題されなかった。・2020年度は出題されなかった論述問題が2019年度以来復活した。また、公民分野では記述問題が2問出題された。・大設問2の歴史問題は、複数の資料から、対立した意見を述べた選択肢から適切なものを選択する問題が出題された。問題が何を問うているのか、きちんと読み取れる読解力と、立場を変えた視点での見方が必要となった。
理科	<p>【難易度】(2020年度との比較) 易化</p> <ul style="list-style-type: none">・2020年度に5問出題された完答問題は1問しか出題されなかった。・2019年度、2020年度に出題された会話文は出題されなかった・化学分野での混合物に関する計算問題と、物理分野での静電気と物体の移動に関する問題の難易度が高かった。・難解な問題も出題されたが、完答問題や、観察・実験問題での文章量が減ったため、全体的な難易度は易化した。
英語	<p>【難易度】(2020年度との比較) 変化なし</p> <ul style="list-style-type: none">・筆記検査-大設問1の条件英作文が、ピクトグラムを見てその説明をする形式であった。・筆記検査-大設問2の対話文完成は、単語の最初の文字が全て与えられていた。・教科書の表現を確実に理解することにより、解答できる問題が多くみられた。